公益財団法人第五福竜丸平和協会
令和 8 年度（2026 年）事業計画

本年は、第五福竜丸展示館開館から 50 年、第五福竜丸建造から 79 年、ビキニ水爆実験から 72 年目にあたる。この半世紀の間に通算来館者は 600 万人を超え、近年では海外から訪れる見学者も増えている。

公益財団法人第五福竜丸平和協会は、協会定款と東京都の展示館設立趣旨にうたう「貴重な木造船・第五福竜丸の現物をとおして伝える」こと、「原水爆の惨禍を再び繰り返させないとの願いを込めて」保存展示が実現したことを踏まえ、都立第五福竜丸展示館からの諸事業を広く都民・市民にむけて取り組んできた。また、展示館建設時の東京都との協議で、この「展示施設を教養（教育）施設とする」との取り決めに基づき、社会的な発信をおこなう。

協会が展示館をとおしてすすめてきた広島・長崎をはじめ核兵器による被ばく被害の大きさと広がり、「世界のヒバクシャ」について伝えることを基本に取り組む。それに基づく常設展示及び企画展などを構想し、第五福竜丸被災・ビキニ事件の影響やマーシャル諸島や世界の核による惨禍を伝える。

公益法人のかなめの事業としての展示館業務

- 東京都からの委託業務、第五福竜丸展示館の管理運営は、第五福竜丸平和協会のかなめの事業である。今年度は開館 307 日（平日 240 日、日曜・祝日 67 日、休館日 58 日）となる。
- 展示館来館者の安全、防災、防火などに万全を尽くす。
- 学校団体、生涯学習グループへの見学の働きかけをはじめ展示館の活用を広げる。
- 「展示館のしおり」の活用、学習教材の作成、教育現場の実情を把握し、学校や教員との連携をはかる。
- 展示館と協会の事業を支える賛助会員などを広げる。
- 第五福竜丸・ビキニ事件を知らせる取り組みとして『第五福竜丸は航海中』などの書籍の普及、広報資材の活用を広げる。

企画展【展示替え】等の取り組み

都との契約にもとづく展示替え（常設展示の一部更新、企画展等の開催）にとりくむ。

本年は、都立第五福竜丸展示館が開館して 50 年の節目である。ゴミ捨て場に放置された船の保存に取り組んだ市民運動から展示館開館に至る歴史、開館からこんにちまでの 50 年のあゆみを、展示館の取り組みや作りだされた作品等、保存・収集された資料から構成し、伝える。

本年はまた、太平洋で核実験がおこなわれるようになって 80 年の節目である。第五福竜丸が被ばくしたキャッスル作戦以前、以後にもマーシャル諸島共和国はアメリカの核

実験場として使われ、イギリス、フランスもまたキリバスやフランス領ポリネシアでの実験をおこなってきたことを、紹介する。

◇企画展＝展示館開館 50 年記念展（6 月～9 月）

第五福竜丸展示館開館 50 年を記念して、船の保存の取り組みから展示施設の建設、開館から現在に至るまでの道のりを、企画展ポスターや作品を紹介することでたどる。

関連イベント等を開催する。

夏休み企画として、全国の小中学生が描いた「みんなの船　第五福竜丸」を展示する

◇企画展＝太平洋核実験 80 年（10 月～3 月）

1946 年から太平洋は核実験場とされ、本年は 80 年を迎える。最初の核爆発実験が行われたビキニ環礁は現在も住民が戻ることなく、2010 年世界遺産に登録されている。核実験による被害と現在に続く苦悩を紹介する。

船体・エンジン等の保存のために

第五福竜丸は建造から 79 年目を迎えた。

実際の耐用年数の数倍を経て、船体は 40 年前の大規模補修工事により保たれてきたものの、損傷が目立つようになっている。協会は、2009 年より第五福竜丸船体等保存検討委員会を設け専門家委員による船体、エンジンの検討作業をおこない、三次元測量なども実施してきた。こうしたもとで、近年、船体木片の落下、ひび割れ、腐朽などが見られるようになり、船体へのダメージを軽減する手だて、来館者への安全対策を講じる必要に迫られている。

また、屋外展示のエンジンについても錆の進行による鉄部の剥落や落下、シリンダー部の割れと落下の危険なども想定されるようになってきた。

協会では、委員会での調査とともに、東京都へ報告し、対策や取りくみをすすめていく。船体とエンジンの現状の把握、安全確保につとめる。

ビキニ事件・第五福竜丸を伝えるとりくみ

- 「第五福竜丸被ばく・ビキニ事件」の貸出し展示資料「マーシャル諸島の核被害パネル」、「世界のヒバクシャ～核開発・核実験のもとで」、映画「西から昇った太陽」などの活用をすすめる。
- 各地での学習会や講演会等の開催をよびかけ、講師の派遣などをおこなう。

出版事業など

- 「福竜丸だより」は展示館・第五福竜丸平和協会と賛助者、市民をつなぐメディアであり隔月の発行をおこなう。「たより」の別冊として展示館と協会の年次報告を作成し配布する。
- 第五福竜丸・ビキニ事件に関するブックレットを刊行する。
  『記念誌 開館 50 年のあゆみ』、図録『第五福竜丸は航海中』の増補資料制作、新しい「ミニ資料」発行など。
  広田重道著『第五福竜丸保存運動史』増補・復刻版を発行する
- 展示館の出版物、図録『第五福竜丸は航海中』、パンフレット『世界のヒバクシャ』、『わたしとビキニ事件』、映画『第五福竜丸』の Blu-ray（監督・新藤兼人）などを普及する。

資料の収集と保存

- 第五福竜丸やビキニ事件に関する資料の収集をすすめる。
- 平和協会所蔵の資料の整理、状況の把握とレプリカ制作など検討する。
- 「福竜丸だより」のバックナンバーのデジタル化をすすめる。

ボランティアのとりくみなど

- 展示館来館者へのガイド、展示館活動への協力などボランティアのとりくみをすすめる。
- ガイドボランティアの養成をはかる市民講座を開講する。
- 子ども向け企画や小・中学生参加の企画(夏休み・春休み)を検討する。

その他のとりくみ

- 博物館実習を受け入れる。
- 展示館開館 50 年・船体建造 80 年記念事業のとりくみをすすめる。
- 諸施設の老朽化、保管が定められている展示資料等の保存スペースが狭隘であることの改善を要請する。
- 館内のバリアフリー化と設備の拡充について要請する。

以上